

AGORA

アゴラ
The Executive
Lifestyle
Magazine

5
May
2019



JAPAN AIRLINES



AGORA Special ブルターニュ

和の香りを探しに

Travel in Japan 日生

小さなしまのレストラン



世界最高ランク5スター獲得

古民家

再訪 壺

島根県江津市

新連載

蔵庭

日本の各地に佇む
魅力的な古民家を訪ね
建物に刻まれた
歴史や文化とともに
そこに息づく

人々の暮らしや
土地の温もりを
紹介していく連載。

第一回は

大きな蔵と広い庭が
象徴的な一軒家。

地域の人々に支えられて
再生した建物が
地域の魅力を伝える。

江澤香織 文
Text by Kaori Ezawa
下村しのぶ 撮影
Photo by Shinobu Shimomura

1



今あるものを

地元の人と

ともに蘇らせる



東西に細長い島根県。真ん中から少し西に位置するのが江津市だ。空港のある出雲市からも山口県に隣接する益田市からも、車で一時間以上はかかる。中国地方最大の江の川が南北に陸を分かつように悠々と流れ、四季折々の自然が創り出す風景にはっと息を呑む。この雄大な景色のせいなのか、江津に住む人々は大らかで明るく、人懐っこさが特徴のように思う。「蔵庭」を営む戸田さん夫妻も、そんなこの街の人々の魅力に引き寄せられてしまった。

夫の耕一郎さんは東京出身で、妻の望さんは江津の隣町である浜田市出身。東京に暮らし、耕一郎



6

- 1 蔵にあった古い家具の引き出しをリメイクした棚に、ペーカリー「紬麦」のパンがずらり。
- 2 店の入り口には、この地方の焼き物・石見焼の「はんど」と呼ばれる瓶(かめ)が並んでいる。
- 3 鬼瓦には、微笑ましいお顔で福を呼ぶ恵比寿様。
- 4 江津の街並み。特徴的な赤い瓦は地元産の石州瓦で、水や寒さに強く、割れにくい。
- 5 広い庭の小道を抜けたところに店がある。
- 6 店の象徴ともいえる蔵。耕一郎さんの事務所兼、趣味の空間として活用している。

吠るきつねの
歌碑と人々

5 2



3



4





たのが、この建物だった。

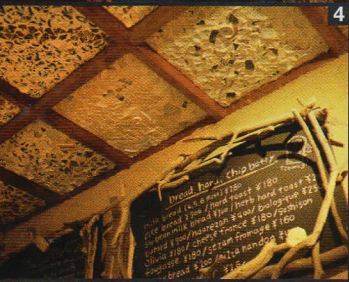
国道二六一号線から少し入った通りにある建物の周囲にはほかに家はなく、都会から来た人なら入るのを躊躇するような山のなか。母屋は築四〇年以上といわれる。もちろん不安がなかったわけではない。しかし耕一郎さんは、蔵のあるこの佇まいを気に入ってしまった。こんなところに店が？という意外性が生まれそうだ。都会ではできないことがここではできるはず——。内見に行ったその日に、心は決まっていた。

建物と人を 知るきっかけに

いざ始まった店作り。建物のリノベーションに大きな力を貸してくれたのは、地元の建築デザイン会社「Design Office SUKIMONO（スキモノ）」だった。自分たちでできるところは手作りで、という



3 2



4



5



として大切にされてきたためか、知り合いでもなかなか入れなかつたと地元の人に教えられた。今は子ども連れの家族がのんびり寛ぎ、賑やかな笑い声が聞こえてくるオープンな空間になった。

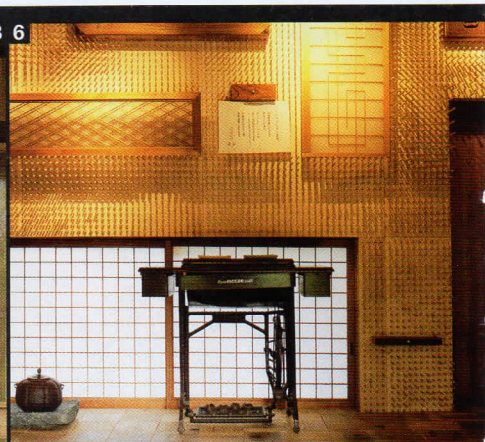
カフェで料理を作るのは、望さんの仕事。主に地元で採れた新鮮な野菜を使い、自然で優しい味わいのランチプレートやパスタが人気だ。ポリウムたっぷりでお腹が満たされるので、マクロビオティックと気づかないお客さまも多いという。「食」と「地域」、「心身」を気持ちのいいバランスに整えることは蔵庭のテーマでもある。

そしてここには、もう一人メンバーがいる。ベーカリー「紬麦」のパン職人、峠土純子さんだ。戸田夫妻とは、もともと知り合いだったわけではない。峠土さんは浜田市で公務員として働いていたが、昔からパンが好きで、自分が本当に楽しいと思うことを仕事にしたいと広島へ出てパン修業を始めた。

- 6 玄関を入ると、不思議な装飾の壁面に目を奪われる。古い扉などの建具もオブジェ風に。
- 7 地元の伝統工芸品「石州和紙」を使い、手作りしたランプ。
- 8 庭の緑を眺められる窓際は特等席。左から戸田耕一郎さん、望さん、峠土純子さん。
- 9 「生き方、暮らし方がこの地にピッタリとハマった」と耕一郎さん。
- 10 パンを目当てに遠方から来るお客さまも多い。
- 11 地元の野菜をたっぷり使ったパスタにはスープとサラダが付く。



8 6



11



10



9

蔵庭

島根県江津市松川町下河戸1-1
 蔵庭 ☎0855-57-0100
 紬麦 ☎090-4146-5233
www.kuraniwa.jp

Information

東京(羽田)、大阪(伊丹)、名古屋(小牧)、福岡、仙台、静岡、隠岐から出雲縁結び空港へJALグループ便が毎日運航。出雲縁結び空港から車で約2時間。空港連絡バスで出雲市駅まで約30分、出雲市駅から江津駅まで電車で約1時間半、江津駅からバスで約15分。

その後、独立のために物件を探していたときに、同じくdodo-ichiで紹介されてここへ導かれたのだ。「戸田さんたちと会って話をしたら、一緒に何かできるといいね、といつてくれて。そこからは驚くほどスムーズに動き出しました」

国産小麦と地元の野菜を使い、子どもからお年寄りまで安心して食べられるパン、それが峠土さんの作るパンである。古民家の持つ温もりがパンを引き立て、この場所にしかない心地良さがある、と峠土さんはいう。

「大げさじゃなく、最高にいいんですよ、ここ。暮らしのすべてが快適で気に入っています」と耕一郎さん。実は蔵のなかに「秘密基地」を作ってしまった。そこで地域の人たちと一緒にワクワクできるような楽しいことを企んでいるらしい。今ではすっかり地元の人となった耕一郎さんは、江津の魅力をより広く伝え、人と人のご縁をつなぐために日々奔走している。